本 会 会 報

学会だより

◇会員の栄誉

中村俊樹会員が平成 29 年度日本農学賞・読売農学賞を受賞

本会会員中村俊樹氏は，平成 29 年 1 月 20 日，「倍数性を利用した新形質小麦開発に関する研究」の業績により，日本農学会から平成 29 年度「日本農学賞」を授与されることが決定しました．日本農学賞は，農学上顕著な業績を挙げたものに対して日本農学会から贈られるものです．授与式ならびに受賞講演は平成 29 年 4 月 5 日（水）午前 10 時より東京大学山上会館において行われます．

◇第 129 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2016 年日本育種学会春季大会（第 129 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 16 課題に決定されました．

講演番号 409：GWA 解析を用いたイネ農業関連遺伝子の単離
☆竹内秀征[1]・矢野憲司[1]・安益公一郎[1]・胡麗[1]・山崎将紀[2]・吉田晋弥[3]・平野恒[1]・北野英己[1]・松岡信[1]（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター，2. 神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター，3. 兵庫県立農林水産技術総合センター）

講演番号 208：タルホコムギ遺伝資源の製パン性に関する遺伝育種学的評価
☆赤池隆亮[1]・柿崎彩佳[2]・笹沼恒男[1,2]（1. 山形大・院農，2. 山形大・農）

講演番号 504：接ぎ木を利用したエピゲノム編集によるジャガイモの高品質化
☆葛西厚史・北條初音・原田竹雄（弘前大学農学生命科学部）

講演番号 511：*Oryza longistaminata* の地上茎と地下茎における伸長制御メカニズムの違い
☆上原奏子[1]・ヌグロホ ジョバノ[1]・近藤宏野[1]・大守知樹[1]・ステファン ロイシャ[1]・川原隆志[1]・古田智敬[1]・蜂谷卓士[1,2]・榊原均[2]・芦苅基行[1]（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター，2. 理化学研究所生産機能研究グループ）

講演番号 521：トウモロコシ *KNOTTED1* の共役因子 BEL1-like homeobox 転写因子のシュート形成における機能
☆津田勝利[1]・前野哲輝[2]・城石俊彦[2]・野々村賢一[1]・ヘイク サラ[3]（1. 国立遺伝学研究所実験圃場，2. 国立遺伝学研究所哺乳遺伝研究室，3. カリフォルニア大学バークレー校）

講演番号 614：イネ減数分裂期タペート組織における small RNA 生合成関連遺伝子の転写制御因子
☆小野聖二郎[1]・津田勝利[1,2]・小宮怜奈[3]・深井英吾[4]・野々村賢一[1,2]（1. 遺伝研・実験圃場，2. 総研大・生命科学，3. 沖縄科学技術大学院大，4. 新潟大・農）

講演番号 P119：日本水稲 Nested Association Mapping 集団による農業形質の遺伝解析
☆前田道弘[1]・田宮元[2]・牧野悟士[2]・堀清純[3]・江花薫子[3]・飯島健[3]・西内俊策[4]・横山若菜[1]・末廣美紀[1]・岡田聡史[1]・合田喬[1]・佐々木萌[1]・Garcia Arturo[5]・土井一行[4]・山崎将紀[1]（1. 神戸大学院農附属食資源教育研究センター，2. 東北大学東北メディカル・メガバンク機構，3. 農業生物資源研究所，4. 名古屋大学大学院生命農学研究科，5. アメリカ農務省農業研究部門）

講演番号 P003：ダイズにおけるタンパク質含有量のゲノム予測と選抜の試行
☆関根大輔[1]・津田麻衣[1,2]・清水武彦[1]・矢部志央理[3,4]・町田佳代[1]・猿田正恭[5]・山田哲也[6]・石本政男[1]・岩田洋佳[4]・加賀秋人[1]（1. 農業生物資源研究所，2. 筑波大・院生命環境科学，3. 農研機構・中央農研，4. 東京大・院農学生命科学，5. 農研機構・近中四農研，6. 農研機構・作物研）

講演番号 P004：光る種子：イネ種子において導入遺伝子の有無を効率的に選抜するためのビジブルマーカー
☆赤坂舞子[1]・谷口洋二郎[1]・大嶋雅夫[2]・田部井豊[2]・田中淳一[1]（1.（国研）農研機構・作物研究所，2.（国研）農業生物資源研究所）

講演番号 P128：イネ品種「Ma sho」の柱頭露出率に関係する QTL の解析
☆川出駿・鳥山欽哉（東北大学大学院農学研究科）

講演番号 115：複雑なゲノム構造がもたらす GWA 解析の偽陽性
☆矢野憲司[1]・竹内秀征[1]・山本英司[2]・平野恒[1]・北野英己[1]・松岡信[1]（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター，2. 農研機構野菜茶研）

講演番号 617：単一のプロモーターによる Cas9-gRNA を用いたイネゲノム編集
☆三上雅史[1,2]・遠藤真咲[2]・土岐精一[1,2,3]（1. 横浜市大院・生命ナノ，2. 生物研・ゲノム機能改変，3. 横浜市大・木原生研）

講演番号 P039：gw2 変異はコシヒカリ背景で玄米を大型化し収量を増加する
☆山本竜也[1]・瀬上修平[1,2]・堀川美穂[1]・竹原佳那[1]・中村麻由美[1]・林猛[3]・中岡史裕[3]・小林麻子[3]・冨田桂[3]・北野英己[4]・三浦孝太郎[1]・岩崎行玄[1]（1. 福井県立大学生物資源学部，2. 日本学術振興会特別研究員（DC），3. 福井県農業試験場ポストコシヒカリ開発部，4. 名古

屋大学生物機能開発利用研究センター）

講演番号 P094：食パンの硬化を軽減する澱粉特性を持つ新たな小麦の開発

☆猪熊貴之[1]・新海陽介[1]・谷口義則[2]・齊藤美香[2]・春原愛[1]・新畑智也[1]・Vrinten Patricia[3]・中村俊樹[2]（1. 日本製粉株式会社中央研究所，2. 農研機構・東北農研，3. Bioriginal Food & Science Corp.）

講演番号 P139：イネ科作物における人為的開花制御技術の開発

☆岡田龍[1]・遠藤直邦[2]・根本泰江[2]・高溝正[1]・井澤毅[2]（1. 農研機構・畜産草地研究所，2. 農業生物資源研究所）

講演番号 P151：アスパラガスの雌雄性決定遺伝子の候補の単離と機能解析

☆津釜大侑[1]・林将人[2]・松山光平[2]・井出真結[2]・藤野介延[1]・増田清[1]（1. 北大・院農，2. 北大・院農）

◇第 130 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2016 年日本育種学会秋季大会（第 130 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 11 課題に決定されました.

講演番号 302：芒形成原因遺伝子 *RAE2* の同定により明らかとなったアジアとアフリカにおけるイネ栽培化の歴史

☆上原奏子[1]・Diane Wang[2]・古田智敬[1]・南杏鶴[1]・永井啓祐[1]・浅野賢治[1]・三浦孝太郎[3]・清水義弘[1]・綾野まどか[1]・土井一行[1]・米田典夫[1]・Anthony Greenberg[2]・呉健忠[5]・安井秀[4]・吉村淳[4]・Susan R. McCouch[2]・芦苅基行[1]（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター，2. Cornell University，3. 福井県立大学，4. 九州大学，5. NIAS）

講演番号 310：イネ節間伸長制御機構の組織化学的解析

☆大里美咲[1]・永井啓祐[2]・芦苅基行[2]（1. 名古屋大・院生命農学，2. 名古屋大・生物機能センター）

講演番号 114：ABA シグナリング経路の強化によってもたらされるコムギの節水型乾燥ストレス耐性

☆妻鹿良亮[1]・安倍史高[2]・金俊植[6]・田中啓介[4]・小林久人[4]・坂田洋一[5]・辻本壽[1]・花田耕介[3]・岡本昌憲[1,7]（1. 鳥取大・乾燥地研，2. 農研機構・作物研，3. 九工大・若手研究者フロンティア研究アカデミー，4. 東農大・生物資源ゲノム解析センター，5. 東農大・応用生物科学，6. 科学技術振興機構・さきがけ，7. 理研・環境資源科学研究センター）

講演番号 P041：A split-SaCas9 is available for a targeted mutagenesis in plant cells

☆賀屋秀隆[1]・石橋和大[2]・土岐精一[1,3,4]（1. 農研機構・生物機能利用先進作物ゲノム改変ユニット，2. 農研機構・生物機能利用植物微生物機能ユニット，3. 横浜市立大学生命ナノシステム，4. 横浜市立大学木原生物学研究所）

講演番号 314：イネの根伸張角度を制御する新奇な QTL，*qSOR1* の単離

☆木富悠花[1,2]・半澤栄子[3]・河合佐和子[1]・菅野徳子[1]・藤澤弘子[1]・金森裕之[1]・呉健忠[1]・佐藤雅志[3]・宇賀優作[1]（1. 農研機構・次世代作物開発研究センター，2. 東京大院・農学生命科学，3. 東北大院・農学）

講演番号 509：遺伝子発現指標を用いた圃場におけるイネの栄養生理の解析

☆竹久妃奈子・佐藤豊（農研機構・次世代作物開発研究センター）

講演番号 P081：日本水稲品種群を用いた粒重分布の特徴記述と品種間差の解析

☆矢部志央理[1,2]・吉田ひろえ[3]・山崎将紀[4]・林武司[1]・中川博視[3]（1. 農研機構・次世代作物開発研究センター，2. JST さきがけ，3. 農研機構・農業環境変動研究センター，4. 神戸大院・農・附属食資源教育研究センター）

講演番号 102：*Oryza* AA ゲノム種に散在する化石ウイルスの進化的および機能的役割

☆齋藤希[1]・陳孫禄[1]・山田加奈恵[1]・チョイ イルーリョン[2]・エンカボ ジェイミー[2]・小出陽平[1]・貴島祐治[1]（1. 北大・院農，2. 国際稲研究所）

講演番号 303：野生イネ *Oryza rufipogon* とインディカ型栽培イネ（カサラス）の戻し交雑集団を用いた種子脱粒性に関する新規遺伝子座の探索

☆岡佑美・竹中祥尭・高間菜摘・井上千鶴・Htun, Than Myint・辻村雄紀・石井尊生・石川亮（神戸大・院・農学）

講演番号 515：点群データによるダイズ初期生育のモニタリング

☆野下浩司[1]・郭威[1]・加賀秋人[2]・岩田洋佳[1]（1. 東京大・院農学生命，2. 遺伝資源センター）

講演番号 605：ダイズの無限伸育型が一粒重に及ぼす影響

☆加藤信[1]・佐山貴司[2]・石本政男[2]・西尾剛[3]・島村聡[1]・平田香里[1]・菊池彰夫[1]（1. 農研機構・東北農業研究センター，2. 農研機構・次世代作物開発研究センター，3. 東北大学院・農学）

◇地域談話会だより

〈北海道地区〉

2016 年 12 月 3 日（土）に北海道大学農学部（札幌市）において，日本育種学会・日本作物学会北海道談話会の年次講演会並びに総会が開催された．一般講演では 38 題の発表があった．一般講演を行った若手（35 歳未満）の講演者の中で，特に優れた講演発表を行った者を審査員の投票により選定，表彰した．今年度から優秀賞の他に学生会員に対象を絞った奨励賞も設けられた．本年度の優秀賞には講演番号 101 の半田望（帯広畜産大学）および講演番号 203 の坂井祐希（帯広畜産大学）の 2 名，奨励賞には講演番号 108 の藤村健太郎（北海道大

学），講演番号 109 の坂内寛明（帯広畜産大学），講演番号 209 の岩元美樹（帯広畜産大学）および講演番号 210 の吉清翼（北海道大学）の 4 名が選ばれた.

◎平成 28 年度一般講演（○は講演者）

101　マラウイのトウモロコシ「ローカル品種」におけるオオコナナガシンクイムシ抵抗性の遺伝変異. ○半田望[1]・Chandiona Munthali[1,2]・相内大吾[1]・谷昌幸[1]・小疇浩[1]・大西一光[1]・森正彦[1]（1. 帯畜大，2. チテゼ農試）

102　RT-PCR 法によるマラウイ・デッザ地域における 6 種類のジャガイモウイルスの分類. ○豊田栞[1]・Chandiona Munthali[1,2]・小疇浩[1]・谷昌幸[1]・相内大吾[1]・森正彦[1]（1. 帯畜大，2. チテゼ農試）

103　北海道と宮城県に生育するホトケノザの葉緑体ゲノム *trn* L (UAA) intron 領域の比較. ○佐々木勇輝[1]・澤田円[2]・我妻尚広[1,2]・岡本吉弘[1,2]（1. 酪農大，2. 酪農大院）

104　岩木山におけるミチノクコザクラの葉緑体ゲノム *trn* L (UAA) 3′ exon - *trn* F (GAA) 領域の遺伝変異. ○澤田円・我妻尚広・岡本吉弘・森志郎（酪農大院）

105　テンサイ稔性回復遺伝子 *Rf1* における不完全優性を示す対立遺伝子の同定. ○上幸代・荒河匠・鏡豊代・吉田有宇・久保友彦（北大院農）

106　十勝地方における陸稲栽培の模索―移植栽培における適正苗の選択―. ○上原稲穂・広嶋克哉・秋本正博（帯畜大）

107　キンギョソウ *nivea* 座で発生するトランスポゾンの転移と修復における体細胞と生殖細胞での比較. ○牧谷佳世・平田愛・大澤怜・貴島祐治（北大院農）

108　イネの発芽直後の低温伸長性に関する量的形質遺伝子座. ○藤村健太郎[1]・貴島祐治[1]・佐藤裕[1,2]（1. 北大院農，2. 北農研）

109　*PROSTRATE GROWTH 1* 座における野生イネ内の対立遺伝子変異. ○坂内寛明[1]・伊藤大樹[1]・丸岡正道[2]・三浦秀穂[1]・大西一光[1]（1. 帯畜大，2. 北大院農）

110　配偶体遺伝子と連鎖するゼブラ遺伝子を有するイネ変異体の遺伝解析. ○川島拓也・小矢崎慧・高橋奈那・高牟禮逸朗（北大院農）

111　水稲新品種「空育 181 号」の特性とその多収要因. ○佐藤博一[1]・木下雅文[1]・丸田泰史[1]・尾崎洋人[2]・其田達也[3]・宗形信也[1]（1. 中央農試，2. 道南農試，3. 北見農試）

112　水稲種子の土壌中での越冬を念頭においた低温および日変動温度条件が水稲種子の生存率に及ぼす影響. ○牛木純・松葉修一（北農研）

201　乾物生産と窒素蓄積に着目した秋播性コムギ品種「きたほなみ」の多収要因に関する研究. ○山田翔太[1]・笠島真也[2]・伊藤博武[2]・神野裕信[3]・大西志全[3]（1. 東農大院，2. 東農大，3. 北見農試）

202　北海道の春コムギ栽培体系におけるヘアリーベッチによる減肥料の効果. ○野口大輔・平田聡之・角田貴敬・内野紀彦・荒木肇（北大農場）

203　スペルトコムギから見出された種子長に関する QTLs. ○坂井祐希・白石隆任・舟田亮佑・門田あゆみ・三浦秀穂・大西一光（帯畜大）

204　春まき小麦「春よ恋」由来の日長反応性に関する QTL 解析. ○山下陽子[1]・来嶋正朋[2]・足利奈奈[2]（1. 中央農試，2. 北見農試）

205　パン用コムギの 2B 染色体上に見いだされたタンパク含量と関係する QTL のマッピング. ○寺沢洋平[1]・伊藤美環子[1]・田引正[1]・長澤幸一[1]・八田浩一[1]・西尾善太[1,2]（1. 北農研，2. 東農大）

206　「Rialto」由来の多収・大粒 QTL を導入した秋まき小麦系統の農業特性. ○林和希[1]・山下陽子[1]・大西志全[2]・神野裕信[2]（1. 中央農試，2. 北見農試）

207　リードカナリーグラス採草地を造成するための適正播種量の検討. ○小沼聖奈・秋本正博（帯畜大）

208　十勝地方におけるラッカセイ栽培の可能性. ○中田翔子[1]・熊田総佳[2]・田中一郎[3]・秋本正博[1]（1. 帯畜大，2. NTT データ，3. 帯広信金）

209　摘芯処理が大豆品種黒千石の草型や収量におよぼす影響. ○岩元美樹・秋本正博（帯畜大）

210　ダイズ初期生育における蒸散速度とバイオマスの関係. ○吉清翼[1]・柏木純一[1]・実山豊[1]・許東河[2]・阿部純[1]（1. 北大院農，2. 国際農研）

211　肥効調節型窒素肥料による起生期追肥が秋播性コムギ「きたほなみ」の生育・収量に及ぼす影響. ○五十嵐公輔[1]・栗原一博[2]・亀岡笑[1]・義平大樹[1]（1. 酪農大，2. ジェイカムアグリ）

212　小麦遺伝子組換え赤粒系統の種皮色合成系遺伝子の発現及び種子休眠性. ○栗原志保[1]・安倍史高[2]（1. 北農研，2. 作物開発センター）

213　春まきコムギの強稈性評価と耐倒伏性. ○佐藤三佳子・相馬ちひろ・吉村康弘（中央農試）

214　2016 年十勝管内における秋まき小麦の低収要因. ○菅原彰（十勝農試）

215　半数体倍加系統におけるコムギ赤さび病抵抗性遺伝子 *Lr34* の農業特性への影響. ○神野裕信[1]・鈴木孝子[1,2]・大西志全[1]・粕谷雅志[1]・其田達也[1]（1. 北見農試，2. 北海道農政部）

216　灰分簡易測定法の導入と子実灰分の初中期世代における選抜効果の検証. ○大西志全[1]・佐藤三佳子[1,2]・其田達也[1]・粕谷雅志[1]・神野裕信[1]（1. 北見農試，2 中央農試）

301　夏季高温による収量低下対策技術としての早生バレイショの晩植栽培. ○津田昌吾・田宮誠司・浅野賢治・下坂悦生・辻博之（北農研）

302　北海道における畑作物の生産性向上 2. 十勝地方におけるてんさい収量とその変動要因. ○柳沢朗（十勝農試）

303　ビート西部萎黄ウイルスに起因する黄化症状の評価について．○黒田洋輔・高篠賢二・上田重之・岡崎和之（北農研）
304　テンサイの種子品質と初期生育の関係．○松平洋明・岡崎和之・黒田洋輔・上田重文・田口和憲（北農研）
305　穂型からみたイネとコムギの中間型としてのエンバク．○高田寛之（農研機構フェロー）
306　葉面受光量シミュレーションのプログラム開発とダイズ成長モデルへの適用．○陳賢賢・柴田洋一（北大院農）
307　カナダ育成ダイズ品種における分枝可塑性―北海道品種との比較―．○義平大樹[1]・西口直輝[1]・亀岡笑[1]・山口直矢[2]（1．酪農大，2．十勝農試）
308　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培による増収効果―栽植密度が増収効果に及ぼす影響―．○浅井裕貴[1]・宋粮[1]・鈴木敦士[1]・亀岡笑[1]・佐藤智宏[2]・村井裕介[3]・義平大樹[1]（1．酪農大，2．パイオニア，3．カネコ種苗）
309　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培による増収効果―成長解析，受光態勢からみた多収要因―．○鈴木敦士[1]・宋粮[1]・浅井裕貴[1]・亀岡笑[1]・佐藤智宏[2]・義平大樹[1]（1．酪農大，2．パイオニア）
310　子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培による増収効果―播種期が増収効果に及ぼす影響―．○宋粮[1]・鈴木敦士[1]・浅井裕貴[1]・亀岡笑[1]・佐藤智宏[2]・義平大樹[1]（1．酪農大，2．パイオニア）

〈東北地区〉

2016 年 11 月 12 日（土）に第 11 回東北育種研究集会（大会委員長：笹沼恒男）が山形大学農学部で開催されました．特別講演として，山形県農業総合研究センターの中場勝氏から，亀ノ尾からつや姫へつながる山形県の水稲育種について，山形大学農学部の小笠原宣好氏から，山形県の在来作物でもある食用菊についての講演が行われました．東北では既に例年より早い降雪があり天候が心配されましたが，当日は 63 名の参加者があり，東北大学の科学者の卵養成講座の受講生として福島県から参加した高校生を含めると，東北 6 県と新潟県からなる育種学会東北地区を構成する 7 県全てから参加する初めての会となりました．

ポスター発表では 30 題の講演があり，非常に活発な質疑応答がありました．ポスター発表会場では，特別講演に関連して炊飯米の食味試験や食用菊の試食も行われました．優秀ポスター賞は 24 題のエントリーがあり，そのうちの 3 題のポスターが優秀ポスター賞として表彰されました．

優秀ポスター賞受賞は以下の 3 題です．おめでとうございました．

P09：*Brassica napus* における形質転換関連形質の系統間差の調査及び GWAS による関与遺伝子の探索
☆齊藤光太郎・李鋒・北柴大泰・西尾剛（東北大院農学）
P19：RIL からの戻し交雑を利用した‘恋ほのか’由来の胴割れ耐性と粒形の QTL 解析
☆山森晃一[1]・田中克典[1]・石川隆二[1]・大森伸之介[2]（1．弘前大学農学生命科学部，2．農研機構中央農研機構）
P26：ベニバナの花弁収量及び花弁色素合成関連遺伝子に関する研究
☆畠山春奈・青柳沙緒莉・高橋優利佳・相澤由佳里・笹沼恒男（山形大・農）

講演会終了後は同大学の農学部会館において情報交換会が行われ，52 名の参加がありました．優秀ポスター賞の表彰式などで大いに盛り上がり，各大学の学生間の交流が図られ，今後の育種学会の発展を期待させる会となりました．

開催の詳細は以下の通りです．

1．日時：平成 28 年 11 月 12 日（土）13:30 ～ 17:20
2．会場：山形大学農学部　〒 997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23
3．プログラム
13:00　受付開始
13:30　開会挨拶（山形大学農学部 笹沼恒男）
13:35　特別講演 1
中場勝 氏（山形県農業総合研究センター水田農業試験場）
「山形県における水稲育種～『亀ノ尾』から『つや姫』へ～．」
14:25　ポスター発表
奇数番号　14:25 ～ 15:05
偶数番号　15:05 ～ 15:45
番号不問　15:45 ～ 16:25
16:25　特別講演 2
小笠原宣好 氏（山形大学農学部）
「菊の食文化」
17:15　ビジネスセッション
17:20　閉会
17:40　情報交換会（農学部会館 2 階）
優秀ポスター賞表彰式
4．ポスター発表 ☆：優秀ポスター賞エントリー発表者 ○：発表者
P01　CMS 原因遺伝子 *orf79* を保有する 4 種類のイネにおける稔性回復機構の解析
☆志田怜那・長恵理子・風間智彦・鳥山欽哉（東北大・院・農）
P02　イネ葉鞘の糖化性を高める遺伝子のマッピング
☆伊藤叶裕・阿部友美・伊藤幸博（東北大・農）
P03　カドミウム耐性を有するシロイヌナズナ ago1 変異体を用いた機能集積の試み
渡辺明夫・中村咲耶・熊谷さおり・中村進一・上田健

治・高橋秀和・○櫻井健二・赤木宏守（秋田県立大学生物資源科学部）

P04 「つや姫」の食味評価向上を目指した突然変異集団からの低アミロース変異体の探索

☆川上珠恵[1]・吉田拓也[2]・後藤元[3]・阿部洋平[4]・中場勝[4]・星野友紀[1,2]（1. 山形大院・農・生物資源，2. 山形大・農・食料生命環境，3. 山形農総研セ，4. 山形農総研セ・水田農試）

P05 *GmSACPD-2a* 遺伝子の一塩基欠損によって生じた重複遺伝子群の転写後発現抑制

☆飯島信繁[1]・畑昌和[1]・渡辺杏里[1]・滝口可菜[1]・上村千穂[1]・川上珠恵[1]・穴井豊昭[2]・星野友紀[1]（1. 山形大・農・食料生命環境，2. 佐賀大学・農・応用生物）

P06 エダマメ生産力の強化に向けた突然変異による「秘伝」開花期の改変

☆畑昌和[1]・飯島信繁[1]・上村千穂[1]・川上珠恵[1]・太田千恵[2]・五十嵐徹[2]・石山秀峰[3]・星野友紀[1]（1. 山形大・農・食料生命環境，2. 山形県置賜総合支庁置賜産地研究室，3. 山形県農林水産部）

P07 極長鎖脂肪酸合成に関わる新たなイネ突然変異体 *oni4* の解析

小暮恵太[1]・菊池達也[1]・益子恵利那[2,3]・佐藤知美[2,4]・佐々木長将[2,5]・佐久間仁徳[2,6]・久慈正義[1]・○伊藤幸博[1,2]（1. 東北大・農，2. 東北大・科学者の卵養成講座，3. 前橋育英高，4. 宮城第一高，5. 釜石高，6. 福島高）

P08 シュートの形態とクチクラに異常を示すイネ突然変異体の解析

☆久慈正義[1]・石橋まゆ[1,2]・酒井義文[1]・松木悠[1]・陶山佳久[1]・伊藤幸博[1]（1. 東北大・農，2. 現：宮城県東部地方振興事務所）

P09 *Brassica napus* における形質転換関連形質の系統間差の調査及び GWAS による関与遺伝子の探索

☆齊藤光太郎・李鋒・北柴大泰・西尾剛（東北大院農学）

P10 Cas9 タンパク質を用いた高感度 SNP 検出条件の検討とイネ突然変異集団への適用

☆木幡龍弥・北柴大泰・西尾剛（東北大農学）

P11 ‘華想い’×‘恋ほのか’の RILs における胴割れ耐性解析

☆伊藤健吾[1]・田中克典[1]・石川隆二[1]・大森伸之介[2]（1. 弘前大・農学生命科学部，2. 農研機構中央農研センター）

P12 5 種のアブラナ科植物における自家不和合性の調査と *SRK* 様遺伝子の塩基配列決定

☆宮腰開・山本雅也・西尾剛（東北大学大学院農学研究科）

P13 ダイコン *S-31* ハプロタイプの塩基配列決定と *S* ハプロタイプ同定法の開発

☆長谷山祐里恵・北柴大泰・西尾剛（東北大学大学院農学研究科）

P14 ハマダイコン（*Raphanus sativus L. var. raphanistroides*）における耐塩性系統間差の調査

☆小林寛人[1]・北柴大泰[2]・西尾剛[2]（1. 東北大学農学部，2. 東北大学大学院農学研究科）

P15 雲南省西部・南部の在来メロンにおける種子のサイズ変異

○田中克典[1]・Mst. Naznin Pervin[2]・山下洋士[2]・吉野熙道[4]・西田英隆[2]・石川隆二[1]・龍春林[5]・加藤鎌司[2]（1. 弘前大，2. 岡山大・院環境生命，3. 萩原農場，4. 昆明植物研，5. 中国中央民族大）

P16 海藻類からのバイオエタノール製造

☆坂本悠[1,2]・柴谷美帆[1,2]・古川景大[1,2]・濱松郁美[1,2,7]・市川晋[1,3]・佐藤耕平[1,4]・村田真麻[1,5]・佐々木秀明[6]・伊藤幸博[1,3]・小平裕子[2]（1. 東北大・科学者の卵養成講座，2. 磐城高，3. 東北大・農，4. 岩手大・農，5. 東北大・工，6. いわき明星大，7. 現：東北大・農）

P17 ベトナムクーロンデルタ流域の多年生野生イネの集団構造

☆ Dinh, T.L.[1,2]・B.C. Bui[2]・T.L. Lang[3]・石川隆二[1]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. Inst. Agri. Sci. Southern Vietnam，3. Cuulong Rice Res. Inst.）

P18 オーストラリア固有野生イネに特徴的な葯長形質の遺伝解析

☆菅原魁人[1]・一谷勝之[2]・石川隆二[1]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. 鹿児島大学農学部）

P19 RIL からの戻し交雑を利用した‘恋ほのか’由来の胴割れ耐性と粒形の QTL 解析

☆山森晃一[1]・田中克典[1]・石川隆二[1]・大森伸之介[2]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. 農研機構中央農研機構）

P20 華想い×恋ほのかの自殖近交系における粒形解析

☆笹森俊雅[1]・伊藤健吾[1]・田中克典[1]・石川隆二[1]・大森伸之介[2]（1. 弘前大・農学生命科学部，2. 農研機構中央農研センター）

P21 青森県の吟醸用品種‘華想い’ゲノム多型領域の解析

☆阿部晃之・石川隆二（弘前大学農学生命科学部）

P22 オーストラリア固有野生イネに特徴的な葯長形質の遺伝解析

☆千葉寛子[1]・菅原魁人[1]・一谷勝之[2]・石川隆二[1]（1. 弘前大学農学生命科学部，2. 鹿児島大学農学部）

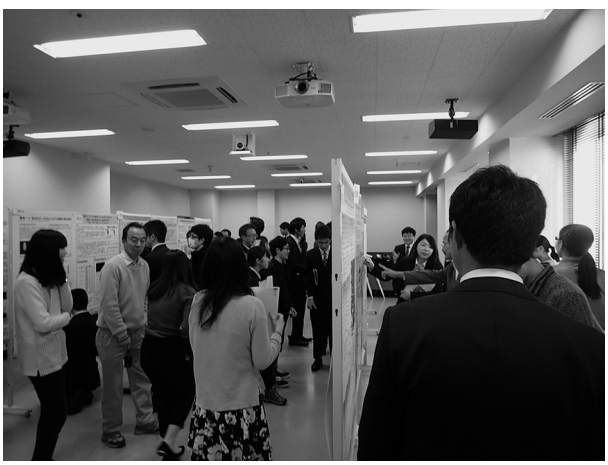
P23 ゲノムワイドアソシエーション解析による *Brassica napus* の塩ストレス下における Na+ 蓄積関連遺伝子の探索

☆真壁由衣・Yong Hui Yee・李鋒・北柴大泰・西尾剛（東北大学大学院農学研究科）

P24 コーカサス地方で収集したパンコムギ遺伝資源の製パン性及び収量に関する評価

☆平山可奈[1]・赤池隆亮[1]・高田兼則[2]・Tamara N. Smekalova[3]・Olga N. Kovaleva[3]・笹沼恒男[1]（1. 山形大・農，2. 西日本農研セ，3. バビロフ研）

懇親会参加一同ならびに優秀ポスター賞受賞者（賞状を持っている学生，院生）.



ポスター発表会場.

講演会場と地域での研究紹介.

地域での育種成果の試食展示.

P25　全代謝産物および DNA メチル化を指標とした小胞子胚発生機構の解析
☆多田周平[1,3]・高橋秀行[2]・佐野真澄[1]・畠山勝徳[1]・高畑義人[1]（1. 岩手大学・農，2. 岩手生物工学研究センター，3. 現：岩手県大船渡農業改良普及センター）
P26　ベニバナの花弁収量及び花弁色素合成関連遺伝子に関する研究
☆畠山春奈・青柳沙緒莉・高橋優利佳・相澤由佳里・笹沼恒男（山形大・農）
P27　中国青海省チベット高原で採集した *Elumus* 属遺伝資源の遺伝的特徴の解明
☆齋藤美帆[1]・田中裕之[2]・佐藤和広[3]・朱明婧[4]・龍春林[4]・笹沼恒男[1]（1. 山形大・農，2. 鳥取大・農，3. 岡山大・植物研，4. 中国科学院）
P28　キャベツにおける高レベル自家不和合性程度の QTL 解析
○畠山勝徳[1,3]・堀崎敦史[2]・田中紀史[2]・新倉聡[2]・松元哲[1,4]（1. 農研機構野菜花き研究部門，2.（株）トーホク，3. 現：岩手大・農，4. 現：農研機構東北農研センター）
P29　山形県と新潟県を中心とした在来食用ギクの抗酸化能に関する系統間差異
○江頭宏昌・舩見真佑（山形大農）
P30　トウガラシ新規辛味欠失系統の遺伝学的解析
○鶴巻啓一[1]・笹沼恒男[1,2]（1. 岩手大・院連合農学，2. 山形大・農）

なお，2017 年度は秋田県立大学にて開催予定となっております.

〈中部地区〉

第 24 回育種学会中部地区談話会が，2016 年 11 月 19 日（土）に農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門安濃野菜研究拠点にて開催された．特別講演 1 題，ポスター発表 23 題に加え，施設見学も実施され，中部地域 5 県の大学・研究機関からの 83 名の参加者間で活発な質疑・意見が交わされた．また一般講演については，参加者全員による投票で優秀ポスター賞を選定し，3 題に授与するなど，互いの成果をたたえ合いつつ盛況の内に幕を閉じた.

発表課題は以下の通りである.

特別講演：アブラナ科野菜育種におけるゲノム育種の現状：遺伝子同定から品種育成まで．柿崎智博（農研機

構・野菜花き研究部門野菜育種・ゲノム研究領域主任研究員）

ポスター発表

P01　維持系統を種子親としたソルガムの一代雑種における高バイオマス性の遺伝学的解析と稔性回復遺伝子の探索．☆岡村進之介[1]・藤井昭裕[2]・山口未来[1]・中村（荒木）聡子[2]・篠原（大前）梢[2]・春日重光[3]・松岡信[2]・北野英己[2]・佐塚隆志[2]（1．名古屋大学生命農研究科，2．名大生物機能開発利用研究センター，3．信大農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター）

P02　普通ソバ（*Fagopyrum esculentum*）における高ルチン含量優良系統の育成（3）．○馬場真優子[1]・南峰夫[2]・松島憲一[3]・根本和洋[3]・谷口岳志[4]・塩川正則[4]（1．信大院理工（農），2．信大農，3．信大学研院（農），4．長野県野菜花き試）

P03　イネ種子根の根端切除による側根形態の変化とオーキシンの関係性．☆河合翼[1]・山内章[1]・犬飼義明[2]（1．名大院生命農学，2．名大農学国際セ）

P04　根系発育を促すイネ *vrs1* 遺伝子の解析とその育種利用の試み．☆長谷川友美[1]・柴田晃秀[1]・高橋（野坂）美鈴[1]・西内俊策[1]・鮫島啓彰[2]・槇原大悟[2]・犬飼義明[2]（1．名大院生命農学，2．名大農学国際セ）

P05　Effect of nitrogen, osmotic stress and sugar content to the lateral root development in rice．☆ Nonawin B. Lucob[1], Misuzu Takahashi-Nosaka[1] and Yoshiaki Inukai[2] (1. Grad. Sch. Bioagr. Sci, Nagoya U., 2. ICCAE, Nagoya U.)

P06　イネの穂構造を制御する APO1 アリルの探索．☆太田自由[1]・保浦徳昇[2]・安藤考紀[1]・石原亮太[1]・縣歩美[1]・池田真由子[2]・土井一行[1]・北野英己[2]（1．名大院生命農学，2．名大生物機能開発利用研究センター）

P07　飼料作物としてのソルガムの生育特性とソルガムサイレージの飼料価値に関する研究．☆土田智大[1]・和久田真司[2]・吉村文孝[3]・佐塚隆志[4]・北野英己[4]（1．名大農，2．ヤンマー株式会社，3．名大農場，4．生物機能開発利用研究センター）

P08　トマトにおける栽培環境変化の二次木部組織発達への影響．☆岩田悠希[1]・髙橋宏和[2]・中園幹生[2]（1．名大農学部，2．名大院生命農学研究科）

P09　日蘭トマト品種を用いた二次木部組織形成の遺伝学的解析．☆林知宏[1]・髙橋橋宏和[2]・中園幹生[2]（1．名大農学部，2．名大院生命農学）

P10　チャ形質転換のための 4 種の毛状根形成アグロバクテリウムの評価．☆山木海人・折原玲美・古川一実（沼津工業高等専門学校物質工学科）

P11　チャ育種のためのツバキ種間雑種の成分分析及び細胞遺伝学的特徴．☆折原玲美[1]・☆北村風花[1]・☆太田智也[1,2]・中尾真之[1,3]・古川一実[1]（1．沼津工業高等専門学校物質工学科，2．現：豊橋技術科学大学，3．現：信州大学）

P12　ハバタキ由来の収量関連 QTL の Basmati 370 遺伝的背景における評価．☆ Peter Murithi Nthia[1]・春原英彦[1]・田崎三香子[1]・米田典夫[1]・北野英己[2]・土井一行[1]（1．名大院生命農学，2．名大生物機能センター）

P13　イネ染色体 1 長腕末端領域の分離ゆがみの遺伝解析．☆國枝真依[1]・春原英彦[2]・島津瑛久[1]・西内俊策[2]・田崎三香子[2]・土井一行[2]（1．名大農，2．名大院生命農学）

P14　イネ NAM 集団利用による穂数および稈長 QTL のマッピング．☆金平翔太郎[1]・春原英彦[2]・森潤一[1]・島津瑛久[1]・田崎三香子[2]・西内俊策[2]・土井一行[2]（1．名大農，2．名大院生命農学）

P15　UAV を用いた圃場作物の表現型取得法の検討．☆屋宜彩花[1]・西内俊策[2]（1．名大農，2．名大院生命農学）

P16　イネの生育予測に向けた気象分類と予測モデルの作成法．☆近藤拓也[1]・西内俊策[2]（1．名大農，2．名大院生命農学）

P17　画像解析によるコメの外観品質に基づく分類の省力化の試み．☆塩川貫太[1]・西内俊策[2]（1．名大農，2．名大院生命農学）

P18　マルチプレックス PCR 法を用いた AABB および AAGG ゲノムをもつ四倍性コムギの同定．☆赤堀江梨[1]・丹野研一[2]・竹内綾香[1]・小林恵子[1]・河原太八[3]・山根京子[1]（1．岐阜大学応用生物科学部，2．山口大学農学

第 24 回育種学会中部地区談話会にて
A：参加された皆さん，B・C：施設見学の様子，D：特別講演，E・F：ポスター発表，G：優秀ポスター発表賞を受賞された皆さん（左から P20，P11，P23）

部，3．京都大学農学研究科）
P19　ワサビの品種識別のための DNA マーカー開発．☆山口博志・山根京子（岐阜大学応用生物科学部）
P20　ワサビ品種間における葉緑体全ゲノム比較解析．☆道木菜那・小林恵子・山根京子（岐阜大学応用生物科学部）
P21　コムギ近縁野生種 Aegilops longissima と Ae. sharonensis における穂の形態形質に関する適応度調査と連鎖解析．☆村川未果[1]・太田敦士[2]・富田淳[1]・河原太八[2]・山根京子[1]（1．岐阜大学応用生物科学部，2．京都大学農学研究科）
P22　ダイコン F_3 系統を用いたグルコエルシン含量に関する QTL の効果の確認．○吹野伸子[1]・北柴大泰[2]・柿崎智博[1]・石田正彦[1]・西尾剛[2]・板橋悦子[1]・小原隆由[1]（1．農研機構野菜花き研，2．東北大院農学研究科）
P23　ナス単為結果性に関与する原因候補変異の探索．☆宮武宏治[1]・齊藤猛雄[1]・山本英司[1]・山口博隆[1]・大山暁男[1]・福岡浩之[2]・布目司[1]（1．農研機構野菜花き研究部門，2．タキイ種苗株式会社）

〈近畿地区〉

近畿作物・育種研究会第 182 回例会が，平成 28 年 11 月 26 日（土）に近畿大学生物理工学部 310 教室（和歌山県紀の川市）において開催されました．例会では，特別講演 1 題に加え，以下の 10 題の一般講演がありました．参加者は 59 名であり，活発な議論が行われました．また，第 2 回優秀発表賞（一般講演で発表する若手研究者を対象とする）には，講演番号⑧東条由花（京都大学大学院農学研究科）が選定されました．

一般講演：
①都市近郊水田特有の光環境が水稲の生育と収量に及ぼす影響．○武田悠磨・大江真道（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）
②馬糞堆肥を用いた水稲の育苗方法の検討．○伊藤みさご[1]・徳本勇人[1]・大江真道[2]（1．大阪府立大学大学院工学研究科，2．大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）
③水稲種子の貯蔵後発芽力の経年変化．○來田康男[1]・岩井正志[1]・上川信行[2]・米谷正[2]（1．兵庫県立農林水産技術総合センター，2．元兵庫県立農林水産技術総合センター）
④暖冬年における踏圧が小麦の生育，収量に及ぼす影響．○篠木佑・松本純一（兵庫県立農林水産技術総合センター）
⑤二粒系コムギの栽培化に伴って変化した穎果の大きさや形態の遺伝学的解析．○宮崎裕貴[1]・Pham Minh Ngoc[1]・Liberatore Katie[2]・Shahryar Kianian[2]・森直樹[1]（1．神戸大学大学院農学研究科，2．USDA-ARS Cereal Disease Lab., Univ. of Minnesota）
⑥日本イネ品種群を用いたリン欠乏応答性根伸長形質に関わる QTL の探索．○小梶裕之[1]・山崎将紀[2]・清水顕史[1]（1．滋賀県立大学大学院環境科学研究科，2．神戸大学大学院農学研究科付属食資源教育研究センター）
⑦野生イネ *Oryza barthii* 染色体断片導入系統を用いた低リン耐性 QTL の探索．○工藤真帆[1]・小梶裕之[1]・平林秀介[2]・清水顕史[1]（1．滋賀県立大学大学院環境科学研究科，2．農研機構・作物研究所）
⑧日本のイネコアコレクションにおける胚乳澱粉の鎖長分布の多様性と澱粉生合成関連遺伝子の発現解析．○東条由花・寺石政義・齊藤大樹・奥本裕（京都大学大学院農学研究科）
⑨Construction of a high-density linkage map of soybean recombinant inbred lines based on RAD-seq methods．○Chien, Yi-Hsuan[1]・Minoru Kanbara[1]・Atsushi Nagano[2]・Masayoshi Teraishi[1]・Yutaka Okumoto[1]（1．京都大学大学院農学研究科，2．龍谷大学農学部）
⑩イネ品種銀坊主が示す「先端短縮穂」の遺伝様式．○加藤恒雄（近畿大学生物理工学部）
特別講演：
耐熱性酢酸菌を育種によって「超」高温耐性化し，その遺伝的背景を明らかにする．
東慶直（近畿大学生物理工学部食品安全工学科准教授）

〈中国地区〉

2016 年 12 月 10 日（土）・11 日（日）に第 8 回中国地域育種談話会（ムギ類研究会と共催）が岡山大学資源植物科学研究所において開催された（運営委員長：岡山大学資源植物科学研究所・佐藤和広）．参加者総数は 156 名，特別講演 1 題，ポスター発表 26 題，口頭発表 6 題であった．また，5 名に優秀発表賞が授与された．
開催日：2016 年 12 月 10 日（土），11 日（日）
場所：岡山大学資源植物科学研究所
後援：大原奨農会，共催：岡山大学資源植物科学研究所
【プログラム】
12 月 10 日（土）
開会挨拶（佐藤和広）

中国地域育種談話会講演（座長 辻本壽）
刑部敬史（徳島大・生物資源産業学部）「植物ゲノム編集技術の新展開」
村田稔（岡山大・植物研）「植物人工染色体の現状と将来展望」
田中義行（岡山大・農学部）「トウガラシ遺伝資源を用いた辛味成分カプサイシノイドおよびその類似物質に関する成分育種学研究」
松島良（岡山大・植物研）「穀類の澱粉粒の形状多様性についての研究」
学生によるポスターフラッシュトーク（座長 久野裕）
ポスター講演

イブニングワークショップ
WS1：「わが国におけるムギ類病害の現状を知る」（世話人　吉田健太郎・小林史典）
○藤田雅也（農研機構）「日本におけるムギ類の主要病害とその対策」
○粕谷雅志（北見農試）「北海道の秋まきコムギにおける病害と抵抗性育種」
○土佐幸雄（神戸大・院・農学研究科）「コムギいもち病菌の出現と Outbreak の機構」
WS2：「コムギ多重遺伝子族グリアジン遺伝子に挑む」（世話人　宅見薫雄）
○川浦香奈子（横浜市大・木原生研）「パンコムギ Chinese Spring における α-グリアジン多重遺伝子の包括的な解析」
○ Julio C.M. Iehisa（Universidad Nacional de Asuncion）「コムギにおけるアルファグリアジンの多様性およびセリアック病関連エピトープの起源と進化」
WS3：「ゲノムワイド遺伝子型の先に何があるのか」（世話人　石川吾郎）
「イネにおけるゲノムワイドアソシエーション解析を用いた遺伝子の迅速な同定」
○矢野憲司[1]・山崎将紀[2]・吉田晋弥[3]・北野英己[4]・平野恒[4]・松岡信[4]（1. 東京大学大学院農学生命科学研究科，2. 神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター，3. 兵庫県立農林水産技術総合センター，4. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター）
「ゲノムワイドアソシエーション解析への工夫や準備すること」
○山崎将紀[1]・前田道弘[1]・田宮元[2]・土井一行[3]（1. 神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター，2. 東北大学東北メディカル・メガバンク機構，3. 名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター）
中国地域育種談話会ワークショップ
WS4：「Wet 研究者がバイオインフォマティクス解析を挑戦するためには？」（世話人　花田耕介）
田中剛（農研機構）「ゲノムに魅せられてインフォ屋さん」
門田有希（岡山大・農学部）「成り行きでインフォマの世界へ飛び込んでみたらこうなった！」

12 月 11 日（日）
ムギ類のゲノム情報とモデル植物からの研究展開（座長 佐藤和広）
佐藤和広（岡山大・植物研）「オオムギのゲノム情報」
持田恵一（理研・環境資源科学研究センター）「ブラキポディウム研究とムギ類研究の接点」
半田裕一（農研機構・次世代作物開発研究センター）「コムギ参照ゲノム配列の現状とポストゲノムの動き」
小林正智（理研・バイオリソースセンター）「ゲノム編集時代への展望：モデル植物とムギ類のリソース」
ムギ類研究会講演（座長 那須田周平）
武田真（岡山大・植物研）「オオムギの突然変異体：遺伝子単離の強い味方」
妻鹿良亮（鳥取大・乾燥地研）「ABA シグナリング経路の強化によってもたらされるコムギの節水型乾燥ストレス耐性」
小林史典・半田裕一（農研機構・次世代作物開発研究センター）「コムギ 6B 染色体のゲノム情報の構築とその利用」
中村俊樹（農研機構・東北農研）「高いパン老化耐性（anti-bread-staling）を持つコムギ開発」
谷中美貴子（農研機構・西日本農研）「西日本農研におけるデュラムコムギの育種について」

【中国地域育種談話会　優秀発表賞】
オオムギの α- アミラーゼ活性に関する QTL 解析
○松本紗都子[1]・久野裕[1]・木原誠[2]・周天甦[2]・佐藤和広[1]（1. 岡山大植物研，2. サッポロビールバイオ研究開発部）
レトロトランスポゾン挿入部位を利用した紫サツマイモにおける品種識別マーカーの開発
○小野菜奈[1]・岸本和樹[2]・田原誠[2]・門田有希[2]（1. 岡山大農，2. 岡山大院・環境生命科学）
イネ stay-green 突然変異体 dcd1 の分子遺伝学的解析
○山谷浩史[1]・上妻馨梨[1,2]・中野道治[1]・林依子[3]・高見常明[4]・加藤裕介[4]・門田有希[5]・熊丸敏博[6]・奥本裕[7]・坂本亘[2,4]・阿部知子[3]・草場信[1,2]（1. 広島大・院理，2. CREST，3. 理研仁科センター，4. 岡山大植物研，5. 岡山大院・環境生命科学，6. 九州大・院農，7. 京大・院農）
キク属におけるマップベースクローニングの試み
○有賀悠貴[1]・中野道治[1]・小塚俊明[1]・磯部祥子[2]・谷口研至[1]・草場信[1,3]（1. 広島大・院理，2. かずさ DNA 研，3. CREST）
植物の重複遺伝子における機能分化機構の解明
○江副晃洋・白井一正・花田耕介（九工大）

中国地域育種談話会集合写真

〈四国地区〉

日本育種学会四国談話会報告

2016年11月24日（木）・25日（金）に第81回講演会，公開シンポジウム（作物学会四国支部と共催）が高知大学農林海洋科学部において開催された（運営委員長：高知大学農林海洋科学部　村井正之）．公開シンポジウムの参加者は80名，講演会は参加者16名，9題の一般公演があった．

【シンポジウム】

日時：11月24日（木）

会場：高知大学農林海洋科学部1号館

テーマ：「農業生産におけるICT（情報通信技術）を利用した環境の予測と制御」

1. 日本の強みを生かしたスマート農業の推進　～ICT関連施策について～

農林水産省大臣官房政策課技術政策室　北川泰義 氏

2. スピーキング・プラント・アプローチ（SPA）におけるICTの利活用

愛媛大学大学院農学研究科　羽藤堅治・坂井義典 氏

3. 米の外観品質に影響を及ぼすフェーンの予報と対策技術

九州沖縄農研センター　柴田昇平 氏

4. 農業におけるICTの利用―富士通における事例―

富士通（株）イノベーティブサービス事業本部
ソーシャルイノベーションビジネス統括部　川井大輔 氏

【普及の現場から】（日本作物学会四国支部主催，高知大学農林海洋科学部共催）

テーマ：「南国地域における大規模稲作経営の現状と課題」

高知県中央東農業振興センター　横山克郎 氏

日本育種学会四国談話会講演会

日時：2016年11月25日（金）

会場：高知大学農林海洋科学部2号館

1. トウガラシ台木品種‘チャガマラン’の育成

○細美祐子・山田美保江・澤田博正・岡田昌久・松本満夫（高知県農業技術センター）

2. 塊根性ペラルゴニウムにおける花茎からの増殖可能性の検討

○蓬莱早織・片岡圭子・大橋広明（愛媛大学農学研究科）

3. 重イオンビーム及び中性子線を用いたデルフィニウム育種効率化のための条件検討

○廣瀬由紀夫[1]・下川卓志[2]・小林亜利紗[2]・濱野毅[2]・古澤佳也[2]（1. 愛媛農水研，2. 量研機構放医研）

4. Effects of a lateness gene Se-1-u on yield and related traits in *japonica* rice.

○ Rana, B.B.[1], M. Yokokura[2], S. Saito[2], T. Kawano[2], M. Murai[2] (1. United Graduate School of Agriculture Sciences, Ehime University, 2. Faculty of Agriculture and Marin Science, Kochi University)

5. 介護食用の軟飯に好適な水稲品種の育成に関する研究

○上向井美佐[1]・B.B. Rana[2]・河野俊夫[1]・村井正之[1]（1. 高知大学農林海洋科学部，2. 愛媛大学大学院連合農学研究科）

6. Yield test for high-yielding and high amylose-content breeding lines carrying *Ur1* gene

○Bhattarai, M.[1], M. Kamimukai[1], B.B. Rana[2], T. Kawano[1], M. Murai[1] (1. Faculty of Agriculture and Marin Science, Kochi University, 2. United Graduate School of Agriculture Sciences, Ehime University)

7. 圃場における真上からの撮影画像を用いたイネの外観形質の特徴抽出

○岡本拓真[1]・川田亮太[1]・山崎達也[2]・笹部健司[2]・櫨林美穂[2]・矢野里実[2]・朽名夏麿[3,4]・杉田（小西）左江子[1,2]（1. 香川大学院農学研究科，2. 香川大学農学部，3. 東京大学院新領域創成科学研究科・4. エルピクセル株式会社）

8. 圃場における斜めからの撮影画像を用いたイネの外観形質の特徴抽出

○川田亮太[1]・岡本拓真[1]・山崎達也[2]・笹部健司[2]・櫨林美穂[2]・矢野里実[2]・朽名夏麿[3,4]・杉田（小西）左江子[1,2]（1. 香川大学院農学研究科，2. 香川大学農学部，3. 東京大学院新領域創成科学研究科，4. エルピクセル株式会社）

〈九州・沖縄地区〉

第11回日本育種学会九州育種談話会を，2016年12月9日（金）に九州大学箱崎キャンパス内箱崎理系地区21世紀プラザIで開催した．今回の談話会は，カイコの系統保存に関する講演を含めて4題の講演と16課題のポスター発表で構成され，事前参加登録者44名を含む多数の参加者により活気あふれる意見交換が行われた．なおポスター発表に関しては，事前参加登録者による投票（有効投票数72票）を行った結果，ポスター番号4番の「The Requirement of Polyglucan Debranching in Starch Synthesis of Rice as Mandated by the Presence of Branching Enzyme 2b.」○中村哲洋，熊丸敏博（九大院農）とポスター番号13番の「*Oryza sativa* L. と *O. glaberrima* Steud. 種間雑種における F_1 花粉不稔遺伝子座 *S18* の遺伝学的解剖」○井上淳之，山形悦透，吉村淳（九大院農）の2題が選定されて優秀発表賞を授与された．発表題目（講演およびポスター発表）は以下のとおり．

〈講演〉

（1）「九州大学で続くカイコ系統保存事業の概要」伴野豊（九州大学大学院農学研究院）（2）「ダイズの開花関連遺伝子の探索と育種利用に向けた取り組み」渡邊哲史

（佐賀大学農学部）
（3）「アジサイの品種育成効率化に向けた育種技術の開発」巣山拓郎（福岡県農林業総合試験場）
（4）「省力的に高品質な無核・小核果実を生産できる三倍体果樹品種の育成」酒井かおり（九州大学大学院農学研究院）
〈ポスター発表〉
（1）「栽培イチゴの果実色に関するゲノムワイド関連解析」○和田卓也[1]・磯部祥子[2]・森美幸[1]・奥幸一郎[1]・坪根正雄[1]・永野聡一郎[2]・平田千春[1]・髙田衣子[1]・下村克己[1]・平島敬太[1]・池上秀利[1]・内村要介[1]（1. 福岡県農林業総合試験場，2. かずさ DNA 研究所）
（2）「土壌環境を制御したバレイショの種いも腐敗耐性検定法」○坂本悠・森一幸・渡邊亘・松尾祐輝・尾﨑哲郎・中尾敬・茶谷正孝（長崎県農林技術開発センター）
（3）「イネ花粉キラーの遺伝的機構」○Kubo T.[1], Yoshimura A.[1] and Kurata N.[2] (1. Plant Genetics Lab. Kyushu-U., 2. NARO)
（4）「The Requirement of Polyglucan Debranching in Starch Synthesis of Rice as Mandated by the Presence of Branching Enzyme 2b.」○ Nakamura T. and Kumamaru T. (Plant Genetics Lab. Kyushu-U.)
（5）「TILLING 法を用いたイネ Oleosin 変異体の選抜」○松坂弘明[1]・橋本博之[2]・佐藤匡央[1]・熊丸敏博[1]（1. 九大院・農，2. 築野食品工業株式会社）
（6）「Genetic diversity analysis and core collection formation in barley genetic resources」○ Elakhdar A. and Kumamaru T. (Plant Genetics Lab. Kyushu-U.)
（7）「ダイズに含まれる微量脂肪酸含量に関する研究」○松本茜・駿河奈那美・木村祐太・渡邊啓史・穴井豊昭（佐賀大学農学部植物遺伝育種分野）
（8）「High-resolution mapping and characterization of *xa42*, a gene showing multiple resistance to rice bacterial blight strains」○ Constantine Busungu・一谷勝之・坂上潤一・川口祥輝・河邊弘太郎・田浦悟（鹿児島大学連合農学研究科）
（9）「オーストラリア野生イネ *O. meridionalis* とアジア栽培イネ *O. sativa* の交雑後代に見出された分離の歪み」○植村真郷・保木良太・西帯野翼・田浦悟・石川隆二・一谷勝之（鹿児島大農学部）
（10）「イネ雑種弱勢遺伝子座 *HWC2* 周辺のハプロタイプ分析と白葉枯病抵抗性との関係」○一谷勝之・田浦悟・佐藤宗治・久保山勉（鹿児島大農学部）
（11）「*in vitro* 青枯病検定法を利用した青枯病抵抗性バレイショの探索」○波部一平（長崎県農林技術開発センター）
（12）「イネ品種あそみのりのイネ白葉枯病抵抗性Ⅲ．圃場抵抗性？」○田浦悟・田中孝尚・Busungu Constantine・川口祥輝・西帯野翼・河邊弘太郎・一谷勝之（鹿児島大学）

甲斐浩臣（福岡県農林業総合試験場）

（13）「*Oryza sativa* L. と *O. glaberrima* Steud. 種間雑種における F_1 花粉不稔遺伝子座 *S18* の遺伝学的解剖」○井上淳之・山形悦透・吉村淳（九大院農）
（14）「台中 65 号と ARC10239 の交雑に由来するイネ組換え自殖系統群の育成と高密度遺伝子型の決定」○大城州人・山形悦透・吉村淳・安井秀（九大院農）
（15）「*Oryza sativa* L. と *O. glaberrima* Steud. 間の F_1 花粉不稔に関与する *S21* 遺伝子の高精度連鎖解析」○村上亮・阪田光和・山形悦透・吉村淳（九大院農）
（16）「アフリカ原産野生イネ *Oryza longistaminata* 由来の染色体断片導入系統群を用いた葯長に関する QTL 解析」○大上貴之・山形悦透・吉村淳（九大院農）

◇本会会報第 18 巻 4 号記事の訂正

第 2 回代議員会議事録の訂正（1 件）
2. 審議事項（ア）平成 28 年度日本育種学会賞の選考について
（正）3. 北海道立総合研究機構　十勝農業試験場大豆育種グループ（代表者：田中義則）「複合障害抵抗性と機械収穫に優れた大豆品種「ユキホマレ」とその改良品種群の育成」
（誤）3. 北海道立総合研究機構　十勝農業試験場大豆育種グループ（代表者：田中義則）「複合傷害抵抗性と機械収穫に優れた大豆品種「ユキホマレ」とその改良品種群の育成」
地域談話会だよりの訂正（2 件）
〈近畿地区〉近畿作物・育種研究会
（正）第 1 回優秀発表賞の受賞者として，講演番号④辻康介（滋賀県立大学大学院環境科学研究科）が選出されました.
（誤）第 1 回優秀発表賞の受賞者として，講演番号④浅山拓馬（滋賀県立大学大学院環境科学研究科）が選出されました.
（正）⑨和歌山におけるアカジソ在来遺伝資源. ○堀端章・松川哲也（近畿大学生物理工部）
（誤）⑨和歌山におけるアカジソ在来遺伝資源. ○堀端章・松哲也（近畿大学生物理工部）

日本育種学会会員異動(2016.10.21〜2017.1.21)

◇**普通会員入会**：市田裕之（埼玉），出口亜由美（滋賀）

住所変更等

◇**普通会員**：谷口郁也，吉永優（茨城），鈴木保宏（埼玉），高山誠司，保木健宏（東京），大森伸之介（新潟），三村真生（静岡），瀬上修平（大阪），小松邦彦（香川）
◇**学生会員**：大橋ほなみ（茨城）

逝去

木口忠彦（北海道），戸栗敏博（栃木）
慎んでご冥福をお祈りいたします.